

メディア学科における初年次セミナーの取り組み ー デイバートを取り入れた授業展開 ー

皆川 武

(メディア学部 メディア学科)

Efforts in Department of Media Studies to Implement First-Year Seminar - Class Development of Incorporated Debate -

Takeshi MINAGAWA

(Department of Media Studies, Faculty of Media Studies)

本学では初年次教育として「ベーシックセミナー I, II」が開講されており、本学のベーシックセミナーテキストの内容を含め、各学科の特徴を活かした授業が展開されている。本学メディア学科では、これまで「ベーシックセミナー I」において、学科でワークシートや教材を開発し、自己紹介や他者紹介からはじめ、大学生活の基礎やグループディスカッション、グループワークによるコミュニケーション技術やプレゼンテーション能力の育成などをめざして授業を実施してきた。本稿では春学期「ベーシックセミナー I」の次段階として取り組んでいる、秋学期「ベーシックセミナー II」におけるデイバートを取り入れた授業展開について報告する。本科目におけるワークシートなどの教材開発や授業の実施方法、授業のながれや評価などについてまとめる。

キーワード：初年次教育、ベーシックセミナー、デイバート、グループワーク、教材開発

はじめに

本学では初年次教育として1年次に「ベーシックセミナー I, II」が開講されており、各学科の特徴を活かした授業が展開されている。メディア学科の「ベーシックセミナー I」においては、目白大学・目白短期大学部ベーシックセミナーテキスト編集委員会によるベーシックセミナーテキストの内容を含め¹⁾、自己紹介や他者紹介、グループディスカッションやグループワークを通して、情報の収集整理やコミュニケーション技術およびプレゼンテーション能力などを身に付けることをねらいとしている。

本稿では、2022年度に本学科で実施した秋学期「ベーシックセミナー II」における、デイバートを取り入れた授業展開についてまとめる。本学科の秋

学期「ベーシックセミナー II」においては、春学期「ベーシックセミナー I」の次段階としてデイバートを取り入れた授業を展開している。春学期「ベーシックセミナー I」で学習した内容を踏まえ、グループワークやデイバートを通して、コミュニケーション力の向上や課題解決に向けた手順、論理的思考方法などを身に付けることをめざしている。

春学期の「ベーシックセミナー I」で実施したグループディスカッションにおいては、各グループ内で意見を交換しながらひとつの結論を導き出すことを目指すが、デイバートでは与えられたテーマに対して、自グループの立場（賛成・反対）から意見をまとめて、相手グループの主張に対し反論や相手グループからの反論に対し、反論の反論をしながらすすめていく。内藤・西村（2018）は、デイバートの

効果として批判的思考力や論理的思考力、迅速な思考力、口頭表現力、傾聴力、質問力、情報収集・活用力、コミュニケーション力の向上が期待されるとしており、藤田・西谷・森山（2015）は自分たちの主張の基盤を築き上げ、対立する相手の主張と戦わせるため、情報収集、分析、論理的な説明、状況判断などのさまざまな能力が求められるとしている。

1. ベーシックセミナーの体制について

本学科の「ベーシックセミナー I, II」は、入学者約 160 名を 6 クラス (A-F クラス) に配分し、1 クラス約 27 名で構成している。各クラスに 2 名の学科教員を配置し、各教員は約 13 名の学生の担任として、個別面談や学生生活、履修などの相談や指導を行っている。

「ベーシックセミナー I, II」の授業運用については、学科でベーシックセミナー担当教員を指名し、該当教員が統括している。ベーシックセミナー担当教員は、授業全 15 回の授業内容の作成から GoogleClassroom の準備、授業で利用するワークシートの開発、クラス担任や学生への事前授業連絡、課題の提示や Google フォームから提出された課題の提出状況の管理などを行っている。なお、授業で利用するファイルは全て GoogleDrive を介して共有している。

2. 教材開発

前述のように、本学科の「ベーシックセミナー I, II」では、ベーシックセミナー担当教員がクラス共通で利用するワークシートを開発している。ベーシックセミナー担当教員である筆者は、これまで学習者が自身のペースで学習することができ、教員が柔軟に個別対応できるテキストを開発し、実践およびその評価を行ってきた（皆川、2002；皆川、2005；西村・皆川、2018）。2022 年度の秋学期「ベーシックセミナー II」においては、履修説明や分野説明会などの全体授業 5 回分を除き、10 回分のワークシート（全 70 ページ）を開発した。

ワークシートは、毎回の学習目標や授業のながれ、具体的な作業内容および課題などを明示することにより、学生が段階的に作業をすすめることができるよう構成している【図 1】。また、授業

終了時に振り返りレポートを課し、期日までに GoogleClassroom のフォームから提出するよう指示した。各クラスで共通のワークシートを使用し、毎時間の授業目標を明確にして、共通の学習内容や課

メディア学科 | ベーシックセミナー II ver.22.01-221014

5

回 **ディベートをしよう**

提示されたテーマについてディベートしよう。賛成側と反対側のグループに分かれて立論・質疑・反論の練習をしよう

確認 **授業の目標**

- 大学で学ぶための基本的なスタディスキルと情報を把握分析して論理的思考法を獲得する
- 情報を客観的に把握分析し、自分の考えを整理して他者に効果的に伝える方法を身に付ける
- 論理的思考や問題解決力などのアカデミックスキルの基礎を獲得する

確認 **授業のながれ**

- 確認** ディベートについて
- ワーク (1)** グループに分かれよう
- ワーク (2)** それぞれの立場からディベートの設計図をまとめよう
- ワーク (3)** 自グループの立論のシナリオをまとめよう
- 参考** 質問・反論の方法 **参考** 反論の反論の方法
- ディベート (× 3 チーム) (6:15:30)**
 - 賛成側立論 1 分以内
 - 反対側立論 1 分以内
 - 作戦タイム 3 分程度
 - 参考** 質問・反論を考える
 - 反対側質問・反論 1 分以内
 - 賛成側質問・反論 1 分以内
 - 作戦タイム 3 分程度
 - 参考** 反論の反論を考える
 - 賛成側反論の反論 1 分以内
 - 反対側反論の反論 1 分以内
 - 学生 (聴取者) による判定 (挙手等) 1 分
- ワーク (4)** 両グループの立論・質疑・反論などをメモしよう (フローシート)
- 課題提出**
GoogleClassroom からフォームを開いて提出期限までに課題提出してください
※ 期限後に提出した場合、当日の授業は欠席となります

確認 **次回 ベーシックセミナー II**

次回のベーシックセミナー II の教室等は Classroom でお知らせします。各自確認してください。

S-1 | ベーシックセミナー II

ワーク (2) **それぞれの立場からディベートの設計図をまとめよう**

指定されたテーマについて**自グループの立場** (賛成はメリット、反対はデメリット) と**相手グループの立場**からの両面からディベートの設計図をまとめよう。

テーマと結論

テーマ

➔

[] 賛成
[] 反対

賛成はメリット
反対はデメリット
を主張する

メリット・デメリットを書きだす

メリット | デメリットは ...

自グループの立場から理由をまとめる

なぜそのメリット (賛成側) | デメリット (反対側) が重要なのかというと ...

だから ...

相手グループの立場・質疑・反論を予想する

結論

ベーシックセミナー II | S-6

図 1 ワークシート例

題を提示することにより、クラス間の授業内容のばらつきに対する学生の不満や不公平感を解消することをめざしている。

3. 授業の実施

2022年度の秋学期「ベーシックセミナーII」の内容を【表1】に示す。【表1】のとおり第1回のオリエンテーション・履修指導、第7回のmediation（メディア学科と大学外のさまざまな組織と連携しながら、メディアを使って社会の課題を解決する実践型の学習プログラム）を通した活動の紹介および第3、14、15回（合計3回）の分野説明会は、全体で授業を実施した。クラス単位で実施する授業は、第2回で夏休みの振り返りと秋学期の学習目標を報告する1分間スピーチを行い、第4回においてグループディスカッションを実施し、第5、6回および第8回から第12回がディベートを取り入れた授業に該当する。第13回は、ディベートで与えられたテーマについて、自身のグループの立場（賛成・反対）からレポートにまとめる方法を指導して、学生にレポートを課している。

ここからはディベートを取り入れた回における、授業展開について報告する。

表1 秋学期「ベーシックセミナーII」の内容

授業日	回	内容	場所
9/20	1	オリエンテーション・履修指導	全体
9/27	2	1分間スピーチ	各クラス
10/4	3	第1回 分野説明会	10900
10/11	4	グループディスカッション (各クラス)	各クラス
10/18	5	ディベート練習 1回目	各クラス
11/1	6	ディベート練習 2回目	クラス混合
11/8	7	全体会 mediationを通した活動	10900
11/15	8	ディベート説明・ディベートグループ分け	各クラス
11/22	9	ディベート準備グループ作業 (個別面談)	各クラス
11/29	10	ディベート準備グループ作業 (個別面談)	各クラス
12/6	11	ディベート準備グループ作業	各クラス
12/13	12	ディベート本番	各クラス
12/20	13	最終レポート課題説明・1分間スピーチ	各クラス
1/10	14	第2回 分野説明会	10900
1/17	15	第3回 分野説明会	10900

(1) ディベートの方法

松本・河野（2007）によると、ディベートにはさまざまな進行方法があるが、自分たちの立場を明らかにする「立論」、相手の議論内容を直接確認したり、相手に意見を求めたりするための「質疑応答」、議論を深めたりまとめたりするための「その他のスピーチ」という3種類のプレゼンテーションの形態で構成されるとしている。また、ディベートの大会ではさまざまなルールが事細かに決められているが、授業でおこなうディベートは臨機応変に対応し、その場限りのローカル・ルールを採用すればよいと述べている。中野（2010）は、大学1年生からのコミュニケーション入門のディベート実践として、初心者でもわかりやすい形式として、賛成・反対それぞれ交互に、立論で自グループの立場の主張を発表し、反駁で相手の主張に反論し、総括で相手の主張と自分の主張を比較し、自グループの優位性を示すという順番で行う例を示している。

本学科においては、2014年よりディベートを取り入れた授業を展開している。はじめは本格的な大会ルールなどを参考として実施したため、ディベートをはじめて経験する学生にとっては難易度が高く困難であったことから、これまで本学科学生に合わせたルールや方法、提示するテーマなど模索しながらすすめてきた。

(2) ディベートの練習

授業の第5、6回において、身近なテーマを題材としたディベートの練習からはじめた。ディベートの練習は、はじめにディベートを行う学生を考慮して、ディベートのながれや考え方、まとめ方などを経験し、概要を把握する準備回として位置づけている。ディベートは、データや文献を調査し証拠を示しながら行うが、練習においては、その初段階として、授業時間内に収める制約も踏まえて、必ずしもデータや文献などの証拠を示すよう指示することなく、グループ内で意見をまとめて提示することにとどめた。また、ディベートの練習として、立論（自グループの立場の主張を発表）、質問・反論（相手グループの主張に対し質問・反論）、応答・反論の反論（相手グループからの質問・反論に対して応答・反論）の順序で賛成・反対それぞれ順番に発表す

ることからはじめた。

第5回授業における練習においては、各クラスで6グループ(各グループ4,5名)に分けて3つのテーマに対し賛成・反対の立場を割り当てた。練習においては「物語を味わうには映像より本で読むべきだ」「買い物はネットよりも実際のお店にすべきだ」「旅行はパッケージツアーよりも自分で計画をたてるべきだ」「映画を観るなら吹き替えよりも字幕にすべきだ」「映画を観るなら映画館よりも自宅にすべきだ」など、学生にとって身近なテーマを取り上げた。これらを含めて、各クラス担任が実際に取り上げるテーマを指示し練習を行った。

次に各グループにおいて、事前に立論発表役、質問・反論発表役、応答・反論の反論発表役の分担を行うよう指示した。ディベートの進め方や時間配分は以下の通り、ひとつのテーマについて約15分でディベートが終了できるよう構成した。90分授業における時間配分は以下のとおりである。

- ・ディベートに関する手順などの事前説明 (10分)
- ・グループ分けおよびテーマと立場の決定 (5分)
- ・テーマについてグループディスカッション (20分)
- ・ディベート練習 (1つのテーマ約15分×3回)
 - ▼ 賛成側立論 1分以内
 - ▼ 反対側立論 1分以内
作戦タイム 3分
 - ▼ 反対側質問・反論 1分以内
 - ▼ 賛成側質問・反論 1分以内
作戦タイム 3分
 - ▼ 賛成側応答・反論の反論 1分以内
 - ▼ 反対側応答・反論の反論 1分以内
 - ▼ 学生(他グループ)による判定(挙手等)
- ・担任教員によるまとめ (10分)

また、はじめてディベートを実施する学生を考慮して、全体のすすめかたやながれをイメージすることができようよう、立論、質問・反論、応答・反論の反論のシナリオをワークシートとして準備して、学生はワークシートに穴埋めする要領で発表できるよう指導した。

はじめに立論発表役は、各グループの代表としてシナリオに従い、学生に向けて1分以内で発表を行う。賛成・反対それぞれの立論発表後、3分間の作

戦タイムを設け、各グループにおいて相手の立論への質問・反論をまとめ、質問・反論発表役がシナリオに従い学生に向けて発表を行う。賛成・反対それぞれの質問・反論の発表後、再び3分間の作戦タイムを設け、各グループにおいて応答・反論の反論をまとめ、応答・反論の反論発表役がシナリオに従い学生に向けて発表を行う。ひととおりの手順が終了後、他グループの学生により挙手等により判定して勝敗を決定した。

第6回授業において、2回目のディベートの練習を行った。2回目のディベートの練習は、AからFクラスの学生が混合になるようグループ分けを行い、各学生は指示されたクラスに参加してディベートの練習を行う。2回目においても、前述の学生にとって身近なテーマを題材として取り上げ、各クラス担任の指示に従い練習を行った。また、シナリオをワークシートとして準備するなど、1回目のディベート練習と同じ手順ですすめた。

前述のとおり、ディベートの練習は、全体のながれやまとめ方などを経験し、概要を把握することと位置づけているが、これらディベートの練習回における振り返りレポートでは「意見を論理的にまとめるのはとても難しいと感じた」「納得させる説明を時間内にすることが難しいと感じた」「感情的にならないことや楽しむということがディベートの大切と気づいた」「賛成派の意見を聞いて反論を出すのが少し楽しかった」など、学生はディベートの練習をとおして、難しさだけでなく、楽しさを経験する回答を得ることもできた。

(3) ディベートの準備・調査・本番

合計2回の練習を経て、第8回から第11回まで4週かけて、第12回のディベート本番に向けた準備・調査を行う。ディベート本番においては、ディベート練習とは異なり、テーマに関する自グループの立場(賛成・反対)について根拠となる資料を調査することや、相手グループが主張する内容を予測して、反論できる資料を準備するなど、根拠となる資料を示すことを必須とした。

第8回は各クラスにおいて4グループ(各グループ6,7名)に分けて2つのテーマに対し賛成・反対の立場を割り当てた。本番のテーマは「教科書を

デジタル化するべきだ」「ゴミ収集を有料化するべきだ」「図書館を民営化するべきだ」「スマホなどを利用したネット投票を導入すべきだ」「選挙の投票を義務化するべきだ」「レジ袋の有料化を見直すべきだ」などから、各クラスの担当教員の指導により決定した。ディベート本番では、ディベート練習と同様のながれに加えて、最終弁論（これまでの議論をまとめ自グループの優位性をアピールする）を追加した。ディベート本番における、90分授業の時間配分は以下のとおりである。

- ・ディベート本番の事前説明（5分）
- ・ディベート本番（1つのテーマ約40分×2回）
 - ▼賛成側立論3分以内
 - ▼反対側立論3分以内
作戦タイム 5分
 - ▼反対側質問・反論3分以内
 - ▼賛成側質問・反論3分以内
作戦タイム 5分
 - ▼賛成側応答・反論の反論3分以内
 - ▼反対側応答・反論の反論3分以内

作戦タイム 5分

- ▼賛成側最終弁論2分以内
- ▼反対側最終弁論2分以内
- ▼学生（他グループ）による判定（挙手等）
- ・担任教員によるまとめ（5分）

また、第8回から第11回の4回分をまとめたディベート本番に向けたワークシートやスライド資料を準備して、各クラス担当教員により、ディベート本番までのすすめ方や注意点などの説明を行うことからはじめた。ディベート本番に向けた準備・調査のワークシートにおいても、立論や反論などのシナリオを準備した【図2】。本番に向けたシナリオにおいては、自グループで調査した根拠を示しながら発表することができるようワークシートを構成した。また、ディベート本番に向けた準備・調査の授業回においては、各クラス担任が状況を把握できるよう、毎回振り返りレポートで各グループの進捗状況と次回までの課題などを、GoogleClassroomのフォームから各自報告するよう指示した。

なお、第9回から第10回はディベート本番に向

ワーク(3) 自グループの立論のシナリオをまとめよう	ワーク(4) 立論の証拠となる資料を調べよう
<p>＜シナリオ：立論＞ 以下のながれを参考にして、自グループの立論のシナリオをまとめよう</p> <p>これから [] について、(賛成側 反対側) の発表をします。</p> <p>賛成側グループ → はじめにテーマについて賛成側、反対側の両グループで確認したことばの定義を確認します。</p> <p>問題 テーマにおける [] とは [] と定義しています。</p> <p>反対側グループ → テーマにおける言葉の定義は、賛成側グループの説明のとおりです。</p> <p>結論 私たちのグループは [] に (賛成 反対) です。</p> <p>その理由 (メリット デメリット) は [] つあります。※証拠は2つですが3つの場合シナリオに追加してください</p> <p>理由 第1点は [] からです。</p> <p>第2点は [] からです。</p> <p>まず第1点 [] について説明します。</p> <p>現状では、</p> <p>この第1点について、私たちが調査した [] によると、</p> <p>ということになりました。さらに、 [] では</p> <p>ということが示されていました。</p> <p>このように、</p>	<p>シナリオ設計図でまとめた自グループの証拠となる情報を調べよう。図書館やネットなどから様々な資料を調査して、より信頼の高い情報を見つけてみよう</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>証拠資料 役割分担 []</p> <p>資料名: _____</p> <p>発行日: _____</p> <p>著者: _____</p> <p>要約・データ _____</p> </div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>証拠資料 役割分担 []</p> <p>資料名: _____</p> <p>発行日: _____</p> <p>著者: _____</p> <p>要約・データ _____</p> </div> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px;"> <p>証拠資料 役割分担 []</p> <p>資料名: _____</p> <p>発行日: _____</p> <p>著者: _____</p> <p>要約・データ _____</p> </div>

図2 シナリオの作成

けた準備と同時に、2週にわたり学生一人につき10分で個別面談を実施した。個別面談は、各クラスにより面談スケジュールを提示して、学生はディベート本番に向けた準備・調査の中で、指定された時間に個別面談を行う。本学科では、1年生を対象として春学期および秋学期の「ベーシックセミナーI、II」の授業時間内に個別面談を行い、個々の学生の状況を把握している。

第12回授業でディベート本番を実施した。ディベートの本番においては、事前に各グループで立論発表役、質問・反論発表役、応答・反論の反論発表役、最終弁論発表役を分担し、前述した時間配分に従い実施した。

ディベート本番では、賛成・反対相互の立論や反論などをまとめることができるフローシートを、ワークシートとして配布した。

4. 評価

第15回の授業終了後にGoogleフォームを利用してアンケート調査を実施した[有効回答数:117名]。アンケートを実施するにあたり、事前に調査目的や利用方法、個人情報の遵守および成績とは無関係である旨を口頭で説明すると同時に、Googleフォームの前文として同様の文章を記載し、同意する場合は回答するよう指示した。

(1) ディベートのテーマについて

ディベート本番のテーマについて「ディベートのテーマのレベルは適していましたか」と質問した回答結果は、「適していた」47.0%、「どちらかというとながしかった」35.0%、「難しかった」16.2%、「どちらかというとながしかった」1.7%、「易しかった」の回答はなかった。ディベートのテーマについては、本学科学生にとって、全体的に適切かやや難しいテーマ設定であった。

(2) 授業に関するアンケート

授業に関するアンケートは、各質問項目について「とてもそう思う」「そう思う」「どちらともいえない」「そう思わない」「全くそう思わない」から選択させた。授業に関するアンケート結果を【図3】に示す。以下、各質問項目の結果のうち「とてもそう思う」「そ

う思う」の割合の合計値を(計○%)と記述する。

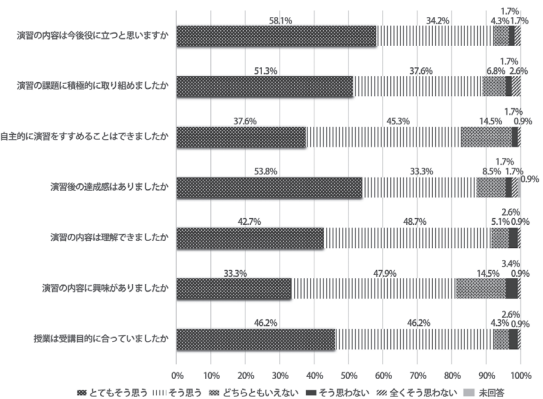


図3 授業に関するアンケート結果

「授業は受講目的に合っていましたか」については「とてもそう思う」46.2%、「そう思う」46.2%(計92.4%)であり、「演習の内容は理解できましたか」については「とてもそう思う」42.7%、「そう思う」48.7%(計91.4%)であった。また、「演習の内容は今後役に立つと思いますか」については「とてもそう思う」58.1%、「そう思う」34.2%(計92.3%)、「演習後の達成感がありましたか」については「とてもそう思う」53.8%、「そう思う」33.3%(計87.1%)、「演習の課題に積極的に取り組みましたか」については「とてもそう思う」51.3%、「そう思う」37.6%(計88.9%)であり、いずれの項目も学生から高い評価を得た。これらのことから、本授業は受講目的のもと、学生は積極的に授業に取り組み達成感を得ることができ、今後役に立つとの評価が高いことから、2年次以降の授業に向けた学びの意欲向上につなげることができるのではないかと考える。

一方、「自主的に演習をすすめることができましたか」については「とてもそう思う」37.6%、「そう思う」45.3%(計82.9%)、「演習の内容に興味がありましたか」については「とてもそう思う」33.3%、「そう思う」47.9%(計81.2%)であり、概ね学生から肯定的な評価を得ているが、先述の項目と比較するとやや低い評価となっている。これらのことから、学生の興味を引き出して、より自主的な授業への参加を促すよう工夫する余地があるとも考えられる。

「ディベートの準備はスムーズにすすめることができましたか」については「とてもそう思う」24.8%、「そう思う」44.4%(計69.2%)であり、約7

割の学生はスムーズにすすめることができた」と評価した【図4】。

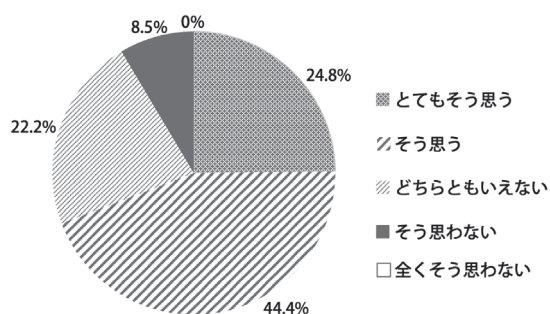


図4 準備はスムーズにすすめることができたか

「ディベートについて上手くいった点や難しかった点などを具体的に教えてください」について自由記述の内容から、先のディベートの準備において「根拠のあるデータを集めるのにとっても苦労した」「適切な資料を集めることが難しかった」「参考となる資料が見つからず、良い反論ができなかった」など、個々で調査する際に根拠となる資料集めが難しく、苦労したとの回答が得られた。一方、「資料や情報をグループで協力して集めることができた」「グループで役割分担を行って作業をスムーズに進めることができた」「個々が資料を集めたことにより、本番での意見は根拠を企てて挑むことができた」など、役割分担することにより、協力して資料収集をスムーズにすすめることができたとする回答が得られた。これらのことから、ひとりの作業に偏ることなく、立論に関する資料を調査する役割や反論に関する資料を調査する役割など、グループ内で役割分担や協力する体制を構築してすすめるよう指導することが重要であることがわかる。

また、「相手の反論に対して上手く対応し切れない部分があった」「その場で反論を考えるのが難しかった」「ディベート本番で臨機応変に対応することが難しかった」などの回答から、事前の練習を経たとしても、学生にとってその場で臨機応変に対応することは難しいことも示された。

「自分のためになったと思う内容について、その理由を教えてください」について自由記述の内容から、ディベートをとおして「それぞれが分担したことを一つにまとめ上げてグループの意見とするチームワーク力がついた」「グループの人と分担して調

べることで情報を集める力を身に付けられた」「ディベートをしたことで、積極的に発言する力やコミュニケーション能力が身に付けられた」「グループ内で協力する力が身に付いた」など、情報収集やコミュニケーション力、協調性などを身に付けたとする回答を得ることができた。

おわりに

本稿では、2022年度に本学科で実施した秋学期「ベーシックセミナーII」における、ディベートを取り入れた授業展開について報告した。本学科では、2014年よりディベートを取り入れた授業を実施しており、これまで本学科に合わせたルールや方法、提示するテーマなどを模索しながらすすめてきた。本報告より、本学科におけるディベートを取り入れた授業は、学生は積極的に授業に取り組み達成感を得ることができたことが示された。また、学生の興味を引き出して、自主的な授業への参加を促すよう工夫する余地もあるが、今後の大学での学びにつながる初段階の学習として、一定の成果をあげたと捉えることができるであろう。しかし、学生からの自由記述から、情報収集やコミュニケーション力が身に付いたなどの回答は得られたが、ディベートの効果として期待される批判的思考力や論理的思考力の向上については、本評価では見いだすことは困難であった。今後は、春学期「ベーシックセミナーI」と秋学期「ベーシックセミナーII」を含めた通年の初年次教育の取り組みとして授業内容の改善を繰り返し、より効果的な学習ができる授業をめざす必要があるだろう。

《注》

1. 本学科のベーシックセミナーIでは、2014年より自己紹介や先輩の体験談など、本学のベーシックセミナーテキストの内容が含まれたワークシートを学科で開発し利用している。また、例えば本学のベーシックセミナーテキストの「危険から身を守ろう」に係る内容として、ブラックバイトをグループディスカッションのテーマ課題として取り上げるなど、全学共通の内容に関連するよう実施している。

《参考文献》

- 内藤真理子・西村由美（2018）『大学生のためのディベート入門 論理的思考を鍛えよう』ナカニシヤ出版
- 中野美香（2010）『大学1年生からのコミュニケーション入門』ナカニシヤ出版
- 西村明也、皆川武（2018）「初年次学生を対象とするコンピュータ演習授業の実践を通じた自学自習テキストの開発」『目白大学高等教育研究 第24号』, pp.75-83
- 藤田直也・西谷斉・森山智浩（2015）『学生のためのプレゼンテーション・トレーニング 伝えるため力を高める14ユニット』実教出版
- 松本茂・河野哲也（2007）『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』玉川大学出版部
- 皆川武（2002）「基礎段階における情報教育のための自学自習教材の開発 ―自学自習テキストのWeb化と支援システムの開発について―」『日本教育工学会 第18回大会講演論文集』, pp.475-476
- 皆川武（2005）「段階的なホームページ制作演習のための自学自習教材の開発」『第31回全日本教育工学研究協議会全国大会 研究発表論文集』、CD-ROM 媒体、論文番号 F-10
- 目白大学・目白大学短期大学部ベーシックセミナーテキスト編集委員会（2022）『ベーシックセミナーテキスト』目白大学・目白大学短期大学部
- （受付日：2023年10月18日、受理日：2023年11月22日）